

(公 印 省 略)
令和6年7月4日

播磨町立学校園長 様

播磨町教育委員会

熱中症事故防止のための対応等について

熱中症事故の防止に関しましては、例年、各学校において対応いただいておりますが、日本の平均気温の基準値が引き上げられるなど、温暖化の影響による児童生徒等の健康確保に一層留意する必要があります。

つきましては、例年以上に対策の必要性が高くなっていることを踏まえ、下記のことに留意いただき、引き続き熱中症事故の防止対策を行っていただきますようお願いいたします。

記

1 暑さ指数（WBGT）を目安とした学校園の対応について

暑さ指数（WBGT）等をもとにこまめに環境条件を把握し、熱中症予防のための運動指針を目安に、児童生徒の発達段階や日頃の活動状況等も考慮して対策を取ってください。（別表参照）

2 熱中症予防情報の活用について

計画立案の際、環境省「環境省熱中症予防情報サイト」等の情報を活用し、時期、内容等を検討してください。

※環境省「熱中症予防情報サイト」<http://www.wbgt.env.go.jp/>

○全国約 840 地点の暑さ指数(WBGT)の実況値・予測値等、熱中症予防情報の提供

・実況値:現在の暑さ指数(WBGT)

・予測値:今日・明日・明後日(深夜0時まで)の3時間毎の暑さ指数(WBGT)

3 WBGT計による計測について

(1) 活動前には、必ず活動場所で計測し、数値を確認すること

- ・体育の授業や部活動など、運動を伴う活動前に毎回、計測・確認する。
- ・校外学習の出発時、学習活動前に計測・確認する。

(2) 活動中も計測し、確認すること

- ・校外学習において徒歩で移動の場合は、移動中にも計測・確認する。
- ・気象の変化に注意しながら、部活動など長時間活動する場合には、1時間おきに計測・確認する。

4 行事等の扱いについて

事前の情報による判断

○活動中に WBGT=28 上となることが予測される場合

- 1 救護スペースを設置し、日射を遮り、氷や飲料等を準備する。
- 2 児童生徒が給水できる環境を整える。
- 3 活動場所に WBGT 計を備える。
- 4 緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。
- 5 救急体制の確認、医療機関リスト等を準備する。

○活動中に WBGT= 31 以上となることが予測される場合

上記1～5に加え

6 クーラーがある休憩所、救護スペースを設置する。

7 運動部の試合等の場合：前日と翌日は長時間の練習を行わない。

○活動開始時に WBGT=31 以上の場合は延期、中止することを検討する。

当日の判断

○活動中に WBGT=28 以上となることが予測される場合

1 救護スペースを設置し、日射を遮り、氷や飲料等を準備する。

2 児童生徒が給水できる環境を整え、給水タイムを設定する。

3 活動場所で WBGT 計による計測を行う。

4 緊急対応用に、氷・スポーツドリンク・経口補水液を十分に準備する。

5 救急体制の確認、医療機関リスト等を準備する

○活動中に WBGT=31 以上となることが予測される場合

上記1～5に加え

6 教室、休憩所、救護スペースのクーラーを稼働させておく。

7 運動部の試合等の場合：翌日の練習時間を短縮、または休養を検討する。

○活動開始時に WBGT=31 以上の場合は原則延期、中止する。

○活動中に WBGT=31 以上となった場合は、活動時間の短縮や、プログラムの変更を行う。

○気象の変化による温度変化に注意し、柔軟に対応する。

5 その他

(1) 当日の下校時間帯に WBGT=33℃以上となる場合は、WBGT=31℃程度に下がる時間まで、繰り下げて下校（教室待機）するなどの検討をお願いします。

(2) 午前7時時点から WBGT=33℃以上の場合は、臨時休業とします。（臨時休業の決定は、警報発表の場合と同様の時刻とします。）

(3) 熱中症特別警戒アラートについて

①(発表基準)

兵庫県内において、すべての暑さ指数情報提供地点における、翌日の日最高暑さ指数 (WBGT) が35に達すると予測される場合

②(発表時間)

前日午後2時ごろ

③翌日は、臨時休業

別表

暑さ指数 (WBGT数値) 乾球温度(目安)	日常生活における熱 中症予防指針 (日本生気象学会)	熱中症予防のための運動指針 ((公財)日本スポーツ協会)	学校生活を安全に過ごす ために
WBGT 31℃以上 乾球温度(目安)35℃以上 危険 (運動は原則中止)	外出はなるべく避け、涼しい室内へ移動する。	特別な場合以外は運動を中止する。特に子どもの場合には中止すべき。	体育などの運動は中止。 屋外や体育館での活動は、中止又は活動時間の短縮。
WBGT 28～31℃ 乾球温度(目安) 31℃～35℃ 厳重警戒 (激しい運動は中止)	外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。運動する場合には、頻繁に休息をとり水分・塩分の補給を行う。体力の低い人、暑さになれていない人は運動中止。	激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は原則中止。 なお、健康チェックや水分・塩分補給など健康管理を徹底し、練習内容、場所、時間、服装などに配慮した上で活動することが可能。肥満や体力等個人の条件、体調を考慮し、運動を軽減、中止する。
WBGT 25～28℃ 乾球温度(目安) 28℃～31℃ 警戒 (積極的に休息)	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。	熱中症の危険が増すので、積極的に休息をとり適宜、水分・塩分を補給する。激しい運動では、30分おきくらいに休息をとる。	積極的に休息をとる。 激しい運動の場合は、30分おきに1回以上の休息をとるとともに、水分・塩分を補給する。
WBGT 21～25℃ 乾球温度(目安) 24℃～28℃ 注意 (積極的に水分補給)	激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに、運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。	運動の合間に積極的に水分・塩分補給を行う。
WBGT 21℃未満 乾球温度(目安)24℃未満 ほぼ安全 (適宜水分補給)		通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。市民マラソンなどではこの条件でも熱中症が発生するので注意。	適宜水分・塩分補給を行う。